

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

セコム損害保険株式会社（証券コード：－）

【変更】

長期発行体格付	AA → AA+
格付の見通し	安定的
保険金支払能力格付	AA → AA+
格付の見通し	安定的

■格付事由

- (1) 警備業界最大手のセコムの連結子会社で、セコムグループの損害保険事業を担っている。当社の発行体格付は、セコムの信用力「AA+」と同等として1ノッチ引き上げた。セコムは議決権の97.8%を有しているなど、経営管理の一体性は強い。また、セコムとの間で「純資産維持に関する契約」を締結しており、当社の純資産額が一定水準を下回った場合にセコムが資金を提供することが約されているなど支援の蓋然性が高い。営業面においても、セコムグループの各事業と関連させた商品展開やグループ企業による当社商品の販売など結びつきが強く、当社はグループにとって戦略的・機能的に重要な位置付けにあるとJCRはみている。
- (2) 事業規模はやや小さいものの、特色ある商品展開と独自のチャネル戦略によりプレゼンスを発揮している。火災保険の割合が比較的大きく自然災害による影響が避けられないため、保険種目間のバランスを考慮しつつ、がん保険「メディコム」や自動車保険の伸長などによる成長を目指している。23/3期上半期の正味収入保険料はメディコムが約4割、火災保険が約3割を占める。実損填補型のメディコムは、自由診療や先進医療をカバーする商品性を特徴としており、協定病院の拡充などによって他社商品と差別化を図りつつ、富国生命保険と提携するなどの販売体制の強化により業績を伸ばしてきた。火災保険はセコムとのクロスセールスを推進しており、セキュリティシステムの導入に応じて保険料を割引くなど、付保対象物件の状況に応じた補償の提供を行っている。自動車保険は、「セコムの緊急対処員による現場急行サービス」を付帯した商品を、ダイレクトチャネルだけではなく代理店チャネルでも販売している点が特徴である。
- (3) 21/3期、22/3期は過年度と比較して自然災害に起因する発生保険金が減少したものの、23/3期上半期は台風14号や雹災の影響により損害率が再び上昇しており、火災保険の収益性の改善に向けた継続的な料率・商品改定や引受厳格化などの取り組みの成果に注目していく。メディコムについては、医療技術の進歩の影響、将来の罹患率、自由診療の利用率が想定と乖離しないかなど確認していく必要はあるものの、損害率は低位で安定しており、全体の利益を下支えしている。
- (4) 資産運用面では、投資対象を厳選しているうえ慎重な投資スタンスで過度なリスクテイクはみられない。信用力と流動性が高い債券中心の運用が継続されており、有価証券にかかるリスクは総じて管理可能とみている。中核的な自己資本は、リスク対比で問題のない水準を維持している。ERM 経営の推進を中期事業計画の主要施策として掲げ、持続的な取り組みを可能にするためのリスクカルチャーの醸成や態勢の高度化を進めている。リスク・リターンのバランスの管理が徐々に浸透しており、保険引受リスクの適切なコントロール、価格戦略、再保険政策を通じて、収益基盤を安定化させることが課題とJCRはみている。

（担当）宮尾 知浩・阿知波 聖人

■格付対象

発行体：セコム損害保険株式会社

【変更】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	AA+	安定的
保険金支払能力	AA+	安定的

格付提供方針等に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2023年4月13日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩
主任格付アナリスト：宮尾 知浩
- 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2014年11月7日）、「損害保険」（2013年7月1日）、「企業グループの傘下会社の格付方法」（2022年9月1日）として掲載している。
- 格付関係者：
（発行体・債務者等） セコム損害保険株式会社
- 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・格付関係者が提供した監査済財務諸表
・格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
- JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 **日本格付研究所**

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル